

第5回「食の討論会～そばを活用した町づくり」報告

1. はじめに

地域産業研究会では、昨今、さまざまな観点で話題となることが多い「食」をテーマとした討論会を継続的に開催しています。

本レポートでは、“そばの里”として全国的な知名度を有する幌加内町・森谷廣町長による“そばを活用した町づくり”と題した講演と参加者による質疑応答、意見交換等を行った、第5回「食」の討論会（平成19年6月4日）の様子を紹介します。

2. 森谷町長の講演

①3つの日本一

幌加内は、北海道のほぼ中央にある、空知支庁管内の最北端に位置し、札幌市からの距離は、約150kmです。

行政面積は、767km²と広大で、町の周囲は国有林や北大雨竜研究林等の森林に囲まれ、山岳が多い地勢となっています。

森谷町長の特別講演は、幌加内町の紹介に欠かせない「3つの日本一」からスタートしました。

1つ目の日本一は、【日本最寒記録マイナス41.2度】。昭和53年に幌加内町の北大演習林での記録とのこと。

2つ目の日本一は、【日本最大の人造湖・朱鞠内湖】。昭和18年に完成した雨竜第一ダムによって堰き止められたダム湖で、湛水面積は約2,373ha。

3つ目の日本一は、本講演のテーマとなりました【日本一の作付面積・生産量:そば】です。



森谷町長

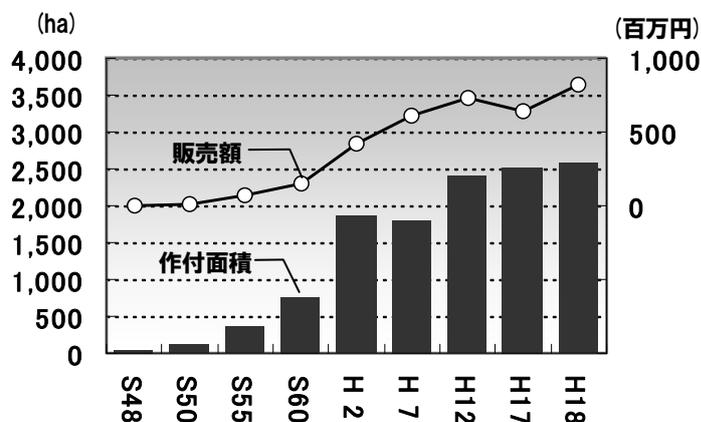
②幌加内町における「そば」の生産状況

幌加内町のそば生産は、水稻の生産調整を背景に、省力かつ短期間で収穫の出来る作物として、昭和48年頃より開始されました。

水稻や他の畑作物との農作業競合（農繁期）が少なく、そばの開花及び結実期にあたる7月下旬～8月中旬の気温・寒暖差が、高品質なそば生産に適していたこと等から作付面積が増加し、昭和55年以降、現在まで「日本一の作付面積・生産量」となっています。

提供していただいた資料によると、平成18年度の作付面積は2,576ha、全国シェア約6%、全道シェア約16%、販売額約8億円となっています。

【幌加内町・そばの作付面積と販売額の推移】



講演会風景

③「そば」が地域に与えた影響

「そば」は、10a当たりの収益は決して高い作物では無く、かつては「過疎のあだ花」と揶揄されていたようですが、幌加内町では、「そば」を地域興しの貴重な資源と捉え、さまざまな取組みにより、日本一となりました。しかし、一方で作付面積の増加に伴う集落機能の低下（維持管理活動の労働力不足・確保）や経営主の高齢化と担い手育成などが現在では大きな課題となっております。

④ブランド化、付加価値・知名度の向上、交流の拡大等の取組み

幌加内町の「そば」生産と町づくりにおける課題解決について、「ブランド化、付加価値、知名度、交流」の観点から具体的な事例をもとに、今後の方針や考え方を説明されました。

【幌加内町の取組み（一部紹介）】

- ▼「幌加内そば」は、平成18年の地域団体商標（特許庁）への出願・登録などにより、客観的にも「幌加内そば」をブランド化
- ▼最先端の乾燥調整施設整備や生産基盤整備のほか、収穫したそばの水分含量、品種統一、JAの一元集出荷体制、出荷時の歩留まり向上・安定など品質・付加価値向上の取組みを継続的に実施など。
- ▼毎年4～5万人が訪れる「新そば祭り」などのイベント開催の他、「'92世界そば博覧会（富山県）」への参加、「2003 第10回そば祭り（世界フェスタ）」の開催とロシア・カナダ・中国・フランス・韓国・フィンランドなどの国外のそば料理紹介。
- ▼全国麺類文化地域間交流推進協議会「素人そば打ち段位認定制度」との連携～手打ちそばの普及活動。

3. 討論会

討論会は、講演に引き続き森谷町長と出席者間との質疑や意見交換形式で行われました。

出席者より多数の意見や発言があり、また、森谷町長の意見や考え方に出席者が反応するなど、貴重で有意義な時間となりました。

【質疑・意見交換の概要】

▼幌加内町内で、生そばを食べられる店舗は、どの程度あるか、また、店舗等への行政支援や考え方について。

▼そばガラの有効活用の取組み（そばがら酢液の製造、その効果（消臭）等）について。

▼そばの品種について（従来種のキタワセソバと幌加内生まれの新品種「ほろみのり」）。



討論会風景

4. おわりに

今回は、幌加内町の森谷町長をお招きし、既存資料やインターネット検索では得られない、貴重な講演をいただき、活発な討論会となりました。

地域産業研究会では、「食」という人間の生存に最も大切なものに着目し、今後とも継続的に幅広く討論会を開催していく予定となっています。

食の討論会に興味をお持ちの方がおられましたら、是非とも、次回の討論会に参加していただければと思います。

5. 分科会報告

地域活性化分科会では、これまで継続的に取り組んでおります寿都町への対応として7月18日（水）及び8月3日（金）の両日に、「寿都町の歴史資源」を主体とした現地調査を実施しました。調査は主に、土蔵・倉庫群、神社仏閣、歴史的建造物などについて、その保存状況についての現況把握（外郭）を行ないました。

エゾシカ分科会では、7月27日（金）に分科会の開催とシカ肉にかかわる情報交換及びシカ肉の試食・評価を行ないました。

（文責 地域産業研究会 会計 小林一弥）